

GREENニュース

行動する環境アドバイザーの会報

第103号 2026

環境アドバイザー連絡協議会

第13期代表 井上金治
令和8年 1月 発行
創刊平成5年7月16日



春の訪れとともに、雄川堰のせせらぎに新緑が芽吹きます。江戸時代から続くこの水路は、今もなお地域を支える現役の農業用水です。歴史ある街並みと調和する美しい水辺環境は、私たちに自然との共生の重要性を伝えています。

前橋市 常見智之

【目 次】

- P2 環境アドバイザーの活動をサポートします！
- P3 成長の限界
温暖化に負けない効果的な緑の都市づくりを考える
- P4 クビアカツヤカミキリの生態
「近年の環境問題 自然界に流出するプラスチック」を聞いて
- P5 環境フォーラム 2025
- P6 第25回ぐんま環境フェスティバルに参加して
- P7 太田・産業環境フェスティバルにて
- P8 上州会議 2025に参加して
編集後記

群馬県環境アドバイザーの登録状況 (2026年1月22日現在)

第13期(登録期間:2024年4月1日～2027年3月31日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計371名です。自然環境部会207名、温暖化・エネルギー部会160名、ごみ部会127名、広報委員会54名が登録し活動されています。

ロゴマーク
作りました！



@ECO_gunma



群馬県環境アドバイザー
連絡協議会



環境アドバイザーの活動をサポートします！

群馬県 環境森林部 環境政策課 環境政策係



新年あけましておめでとうございます。

1月22日現在で環境アドバイザー登録者数が**371**名になりました。これほどのたくさんの方々が環境に関心を持ち、より良い環境へ向けて希望に満ちた活動をされていることに大変頼もしく思います。そんな皆さんのボランティアとしての活動に対しまして、群馬県として少しでも活動のサポートができますようにと下記施策を毎年実施しています。来年度も予定しておりますのでぜひご活用していただけますようご案内いたします。

地域環境学習 推進事業



この事業は、事業者（環境アドバイザーが所属する団体又は複数のアドバイザーにより構成される任意の団体）に学習事業を委託するもので、事業者がテーマに沿った学習事業を提案し、県が委託契約を締結、事業終了後委託料（会場費等経費）をお支払いするプログラムです。

「環境に関するイベントをやりたい、でも経費が…」

お答えいたします ❤️

令和8年度は4月中旬より募集を始める予定ですので、以前の状況等HPをご覧いただきぜひご応募ください。

<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501796.html>

子ども向け 地域環境学習 支援事業



子どもたちに環境学習で伝えたい、イベントで関心を持ってもらいたい…そんな身近な活動にもサポートいたします。

子ども向けの地域における環境学習を目的とした学習会やイベント等に、主催者から県に依頼していただければ環境アドバイザーを講師として派遣いたします。また、環境学習に必要な機材等県が所有する物品を貸出しいたします。

この事業は随時募集しておりますので、環境サポートセンターまでご相談ください。

<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/501769.html>



【ECOぐんま】の情報は、<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>



成長の限界

副代表（高崎市） 田中 和夫

「成長の限界」と言う本をご存じですか？1972年ローマクラブが著した本で「人口増加や環境汚染が続ければ100年以内に地球上の成長が限界に達する」という、マルサスの「人口論」にも通じる天然資源の有限性を表明した環境論の先駆とも言える本ではないかと個人的に思っています。

前年に第一回の公害管理者試験が実施され私も受験しましたが、「公害」から「環境」へと問題意識が徐々に移っていった先駆けかも知れません。石油埋蔵量についてはその後の原油価格高騰でそれまで無視されていた資源が「増加」しましたが、新たに「地球温暖化」が大きく取り上げられるようになってきました。

産業革命以降という短期的な捉え方と地球数十億年の中ではどうかなど論議はさまざまですが、私は昔から人類が再生産不可能な「化石燃料の浪費」に関しては絶対反対の立場は変わりません。この本はいまでも入手可能だそうです。

【講演会実施報告】
2025年9月27日開催

「温暖化に負けない、効果的な緑の都市づくりを考える」

～都市部の温暖化の特徴を知り、その効果的な対策・適応のありかたを学ぶ～



温暖化・エネルギー部会 金子昭一

温暖化・エネルギー部会では、令和7年度もオリジナルの講演会を企画し、実施しました。今回は、都市部や市街地の温暖化の特徴を理解し、街路樹等、その温暖化への効果的な対策や適応を考える機会を提供することを意図し、2つの講演と1つの意見交換の場を用意しました。

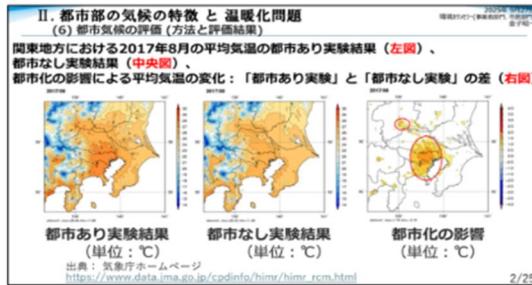
講演1では、「都市部の温暖化とその対策の概要～都市気候の特徴、公共団体の施策等～」と題し、市街地の局所的気象メカニズム（特にヒートアイランド現象）についてと、温暖化への対策とヒートアイランド現象の緩和に有効な対策の一般的な例の解説がなされました。

講演2では、「温暖化・ヒートアイランドに対する「緑の日傘」と題し、樹冠被覆と緑地による温度低減効果、世界の都市で進む樹冠被覆率増大、近年の日本の街路樹の実態、街路樹の樹冠拡大に向けた課題等の解説がなされました。群馬県でも都市気候／ヒートアイランド現象がはっきりと表れている地域があること、そのため地球温暖化で一般に知られている以上に温暖化が深刻であること、一方でその対策は極めて不十分であることなど理解を深めることができました。

また、今回はWeb視聴者を合わせると県外からの参加者が25%に達し、群馬県環境アドバイザーの活動の輪が広がったという成果もあったと感じています。なお、GreenニュースNo.102号の表紙にも、この日最後のプログラムでありました自由意見交換の場面の写真が掲載されていますので、そちらもご覧ください。



藤井千葉大学名誉教授
による講演2 写真



III. 都市部の温暖化対策の概要～公共団体の施策等～
(5) ヒートアイランド現象の緩和に有効な対策の例

表. ヒートアイランド現象の緩和に有効な対策手法例の一覧

対策手法	データ（ヒートアイランド現象の緩和に有効な対策）	対象	評議会	実験実証	実証実験
風を活用した対策	風景山風の活用 河川・水辺の風の活用 風景風などの風の活用	2 ✓ 3 ✓ 4 ✓	✓	✓	—
緑を活用した対策	緑地の活用 樹冠被覆率の増大 樹冠拡大の実験 樹冠被覆率の増大 樹冠拡大の実験 樹冠拡大の実験	5 ✓ 6 ✓ 7 ✓ 8 ✓ 9 ✓ 10 ✓	✓	✓	✓
水を活用した対策	水辺の活用 緑地と水辺の統合	11 ✓ 12 ✓	✓	✓	✓
日射の反射や遮蔽を活用した対策	遮蔽物の活用 遮蔽物の高さの変化 遮蔽物の高さの変化 遮蔽物の高さの変化 遮蔽物の高さの変化	13 ✓ 14 ✓ 15 ✓ 16 ✓ 17 ✓	✓	✓	✓
人口換熱対策	人口換熱の実験 人口換熱の実験	18 ✓ 19 ✓	✓	✓	✓

出典：環境省「ヒートアイランド対策ガイドライン」（平成24年度版）
https://www.env.go.jp/air/life/heat_island/guideline/24/chapt2.pdf

3/25



ヒートアイランド現象が顕著なエリア
環境カウンセラー 金子昭一 による 講演1より

市街地で有効な温暖化適応策の例
環境カウンセラー 金子昭一 による 講演1より

【ECO ぐんま】の情報は、<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>



クビアカツヤカミキリの生態

自然環境部会（前橋市） 井上 金治

生物との共生を目的に開発しているガーデン「生きものたちの庭」のクヌギは、樹液を求めてカブトムシやクワガタなどの虫たちが集まる“酒場”となっている。そんなガーデンの暑い夏の日（7月18日）、このクヌギの酒場に特定外来生物であるクビアカツヤカミキリが飛来した。その後、7月29日までに計79匹が確認され、そのほとんどがメスであった。

クビアカツヤカミキリの幼虫は桜などのバラ科植物を食害して成虫になるが、メスは産卵のためにクヌギなどの樹液を摂取する必要があるのかもしれない。このような生態の理解は、クビアカツヤカミキリの防除に極めて重要だと考えている。

樹液に集まる時期はおそらく6~7月に集中しているようで、この期間に人工樹液などを用いたトラップを設置すれば、効率的な防除が可能だと見込んでいる。自然環境部会ではラインググループを立ち上げ、来期に向けて効率的な誘引のための人工樹液の試作やトラップの検証を行いたいと考えている。興味のある方は、ぜひラインググループへの参加をお願いしたい。ラインググループに興味のある方は著者（kininoue@lagoon.ocn.ne.jp）までご連絡ください。



講演「近年の環境問題 自然界に流出するプラスチック」を聞いて

ごみ部会（中部地区）磯 信子

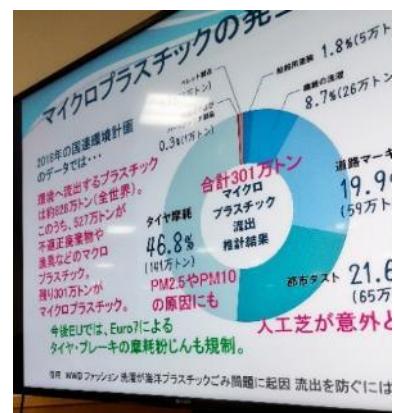
令和5年にエコカレッジを受講し、今年度からごみ部会で活動をしています。

環境問題に興味を持ったきっかけは、新聞で群馬県のごみ排出量が全国で2番目に多いという記事を目にしてからです。子どもたちやその先の家族が少しでも暮らしやすくなるように今自分にできることをしたいと思いましたが、どこへ行っても初めて聞くことばかりで知識のなさに愕然とします。今は勉強の時間だと思いなるべく多くの活動に参加を心掛けています。

今回の富岡賢洋さんによる「近年の環境問題 自然界に流出するプラスチック」の講演でも、知らなかった情報がたくさんありました。海洋マイクロプラスチックは衣類の洗濯による化学纖維の流出が多いと思っていましたが、それはわずか8%、都市ダスト20%、道路マーキング20%で、50%は自動車のタイヤの摩耗粉塵だそうです。タイヤがゴムだけで出来てないことも知りませんでした。プラスチックをなるべく使わない生活もしてみましたが、意地になると苦しくなりました。スーパーのレジでポリ袋に入れないので下さいと言うのも疲れました。

でも自動車を使わない生活は高齢になり免許を返納すればやってくるので、今から良い時間の電車やバスがあれば使うようにして、運転頻度を減らしたいと思います。

会の最後の意見交換では海洋プラスチックを無くすことは出来ないのではないか？という声で終わってしまい、さて私はこれからどうすればよいのかと明確な目標を持つことができませんでした。部会の皆さんができるような活動をされているのか、深くお話を聞いてみたいと思います。



環境フォーラム 2025

さあ、活動の輪をつなぎ広げよう！～to the next generation～

2025 環境フォーラム実行委員長（高崎市） 奈賀 由香子

11月1日（土）県庁28階で環境フォーラムが開催されました。60名ほどの参加と上毛新聞で報道されましたが、スローガン通り新たな世代（年齢だけではなく）と「つなぎ広げよう」ができたかなと感じています。

今回のフォーラムについて運営側の視点で当日までのことなど書き残したいと思います。

コロナ禍以降、環境フォーラムはアドバイザーを対象とすることが明確となり、今回は初めての実行委員会募集からスタートしました。私の「ドイツフェスが同日開催なら環境先進国ドイツ大使も来るかも」発言で実行委員長に指名されてしまい、ドイツ大使の意向伺い（結局来られず）、当日の講演をSDGs芸人のアンカンミンカン富所さんに頼む（即OKでました！）、大筋の流れを受けて実行委員会での意識合わせ、というあたりから取り掛かりました。



最初の実行委員会は総会で実行委員を募った後の6/25、目的、誰に何を伝えたいか、何をやりたいかについて話し合い、ライングループを作成し、連絡が密に取れるようにしました。第二回目は7/17、スローガンを決め、展示発表の募集、全体の構成（活動発表、講演、交流会、ごみ拾い）、廃棄PC回収の提案、会場レイアウトなどを話し合いました。今回の目玉は、「カフェでくつろいだ感じの交流会」を目指したため、会場をスクール形式からカフェスタイルに変更する作業が大変かも？と、8/14に実際に机を移動させてみるミュレーションを行いました。労力は相当のものがありましたが（笑）、会場のイメージが固まり「よし、できる！」それを受け、チラシの内容を確定。9/3の実行委員会で、スタッフ役割分担、口頭発表者決定。最終実行委員会はラインでの書面開催（10/14～数日）で当日の流れ、全体の確認、役割確認。最終的に10日前に進行表と次第ができ、交流会ファシリテーター20名確定しました。そして、ロゴマークの決定連絡と藤城課長がコメンテーターもしてくれるという嬉しい流れになりました。そして迎えた当日、皆様のおかげで盛会となりましたことを感謝申し上げます。スタッフの皆様、県の皆様、本当に疲れ様でした！

今回はスタッフの中で何度も話したのが、「アドバイザーにどんな人がいるかを知っている人と話すことで仲良くなる」を目指す交流会のことでした。ぎっくり腰で痛みをこらえての富所さんの講演は、まさに「つながり」がテーマで、聞いて終わり、ではなく感想を言い合える場をつくれたことが本当に良かったと思います。なぜアドバイザーになったのか原点を思い出してもらい、これから何ができるかを話し合うことで、やる気アップにつながったと思います。最後の後片付けに皆さんの熱意が表っていました。

今回の反省点としては、ごみ拾い活動の参加者が少なかったことです。せっかく富所さんと一緒にごみ拾いが出来るチャンスだったのに残念でした。後片付けの後にごみ拾い活動を設定すればよかったのですが、やはりプログラムは分散させてはいけないと後の祭りでした。この反省点も来年の実行委員会に活かしていただければと思います。来年の実行委員の皆さんへつなぎます、さあもう始まっていますよ！ぜひ来年の実行委員に立候補してくださいね！

アググラム		
No	開始時間 終了時間	内容
1	10:00	開会式 ・特別な来賓（ドイツ大使）登壇 ・ロゴマーク発表
2	10:10	実行委員会 ・SDGsアドバイザーフォーラム ・ごみ拾い ・廃棄PC回収 ・会場レイアウト
3	12:00	パネル発表 ・「つながり」の発表者によるSDGsショーレーター ・ごみ拾い
4	13:00	実行委員会 ・実行委員会によるSDGsショーレーター ・ごみ拾い
5	14:00	実行委員会 ・実行委員会によるSDGsショーレーター ・ごみ拾い
6	15:00	閉会 ・実行委員会によるSDGsショーレーター ・内緒であります



第25回ぐんま環境フェスティバルに参加して

伊勢崎市 青木裕一

11月15日（土）10:00～15:30、第25回ぐんま環境フェスティバルが開催されました。当日は天候にも恵まれ多くの来場者で賑わっていました。群馬県庁1F県民ホールでは24団体が展示を行い、県民広場では7団体が展示を行い、さらに特設ステージではG-FIVEのショーやFM GUNMAの公開生放送を行っていました。また、スタンプラリーも開催されていて、6ヶ所に置いているスタンプを集めると、抽選でマグカップや食事券をプレゼントしていました。



【G-FIVEのショー】



【FM GUNMAの公開生放送】



【スタンプラリー】

群馬県環境アドバイザー連絡協議会では、県民ホールに展示ブースを出し、自然環境部会、ごみ部会、温暖化エネルギー部会、広報委員会の各活動紹介や環境クイズを実施し、クイズに参加いただいた方には環境アドバイザーの皆様から提供してもらったリユース品（環境本、環境ゲームなど）をプレゼントしました。また、来場者にパソコンに自分の通勤手段を入力してもらい、環境や健康への影響を実感し、公共交通機関利用の有効性を考えいただきました。



【協議会の活動紹介と環境クイズに正解した方にリユース品のプレゼント】



【公共交通機関シミュレーション】

私は昨年9月から勤務する会社のISO環境事務局担当になり、社内の環境活動の企画・推進と共に、社外の活動にも積極的に参加しようと、今年、ぐんま環境学校（エコカレッジ）を受講し、7月から群馬県環境アドバイザー連絡協議会に入会しました。今回初めて、ぐんま環境フェスティバルに参加し、先輩達が積極的に解説したりしているのを見ながら、少しお手伝いをさせて頂きました。また、他の団体のブースも見学し、VRゴーグルでの尾瀬自然体験、発電体験、群馬県版マイCO₂シミュレーター、嗅覚体験など、たくさんの体験をしたので、今後の活動に役立てていきたいと思います。

今まででは太田産業環境フェスティバルしか参加していませんでしたが、各市町村でも同様のイベントが開催されていることを知り、来年は別のイベントにも参加してみたいと思っています。

太田・産業環境フェスティバルにて

東部地区 井野口智子

昨年のことになりますが、2025年11月に太田市で開催された産業環境フェスティバルにおいて、パネル展示を行いました。同年9月、元群馬県立自然史博物館副館長・中島啓治先生の資料提供および解説、ご協力のもと、「新田の大地ができるまで」をテーマに、地質から地域の自然環境を学ぶ場を企画しました。その際に作成した、日本と群馬の成り立ちを含む地質年表を、新田環境みらいの会のブースにてパネル展示させていただきました。

46億年前の地球誕生から、地殻変動、幾度にもわたる火山活動や河川の流れの変化といったダイナミックな自然の営み、そして約1万年前にこの地域に到達した先人たちの工夫ある暮らし。それらが重なり合い、現在の私たちの暮らしを支える土地が形づくられてきたことを、まずは来場者の皆さんと共有したいという想いがありました。たとえば、25億年前に酸素と海中の鉄イオンが反応して形成された鉄鉱石、約3億年前に蓄積された植物の恵みである石炭。こうした資源が、現在では人類の活動によって急速に消費されているという事実も、地質の時間軸の中で捉えてもらいたいと考えました。

産業環境フェスティバル当日は、雨の降る肌寒い一日でしたが、多くの来場者で賑わいました。けれど、本展示を通じて、産業と自然環境のバランスの大切さを十分に共有できたかという点では、なお工夫の余地があるとも感じました。また、産業と自然環境、それぞれのブースは多彩で魅力的であった一方で、その相互のつながりが来場者にとって見えにくかったことは、今後に向けた大切な気づきでした。

産業環境フェスティバルはその名の通り、産業と自然が交差する貴重な場であります。展示や対話を通してその関係性をより分かりやすく伝えられるよう、出展者同士、そして来場者とともに考え、育てていくことが、より豊かなフェスティバル、より素晴らしい群馬の環境へつながっていくのではないかと、改めて感じさせてもらえた一日でした。



上州会議 2025 に参加して

富岡市 小井土ひなの

私たち上州ぐんま ESD 実践研究会（高崎商科大学萩原ゼミ）では、2025 年 12 月 14 日（日）の午後、高崎商科大学にて、「第 8 回上州ぐんま市民環境保全活動発表会＆交流会（上州会議 2025）～『5 つのゼロ』と『ネイチャーポジティブ』実現に向けた市民の一歩～」を開催した。本会は、群馬県内で取り組まれている環境保全や ESD の実践を共有し、身近な行動につなげていくことを目的として実施している。

基調講演には、環境カウンセラーとして企業・自治体・市民をつなぐ実践を行ってきた向中野裕子氏を迎える、「未来をつくるサステナビリティ人財とは?—伝えるデザイン」と題して講演をいただいた。環境やサステナビリティを社会に広げていくために必要な「伝え方」の工夫や、人と人をつなぐ役割の重要性について、具体的な事例を交えながらわかりやすく紹介していただいた。

発表は全8件で、口頭発表に加え、録画発表1件、資料提示型発表1件を含む多様な形式で行われた。環境アドバイザーや市民、学生による報告を通じて、県内各地で展開されている環境保全・ESD活動の実践が共有された。上州会内でこれほど多様な取り組みが行われていることを初めて知った」「自分たちばかりかと感じた」「ネイチャーポジティブという考え方方が身近な活動と結びついた」



萩原ゼミの学生は全員が環境アドバイザーに登録し、ゼミ活動を中心に地域と関わりながら環境保全・ESD実践に取り組んでいる。今回の上州会議を通じて、既存の活動をさらに発展させるとともに、県内で活動する多様な実践者と連携しながら、新たな一步を踏み出す可能性が確認された。今後も、こうした学びと出会いを大切にしながら、地域に根ざしたESDの実践を継続していきたい。

編集後記

広報委員 角田正基

あと2ヶ月ほどで今年度の環境アドバイザーとしての活動も終了しますが、「環境フォーラム」や「環境フェスティバル」をはじめ、各地区でのイベント、各部会と委員会での活動において、多くのアドバイザーの皆様が今年度も活躍しました。

このアドバイザーという単語は、チャットGPTに質問してみると「専門的な知識や経験をもとに、助言・提案・指導を行う人」のことを表わすそうです。ただ私見を述べさせていただくと、環境アドバイザーは、①難しい環境分野を分かりやすく説明するインタープリター、②環境に無関心な人を環境に結びつけるコーディネーター、③環境に関心があるが活動に移していない人を活動できるよう後押しするファシリテーター、そして④共に環境活動を行うリーダー、など各々得意とする役割を持った会員で構成されているように感じます。

これからも、こうした様々な役割と得意分野を持ったアドバイザーと協力して、より良い活動へ繋げていけます。

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース (GN) は年4回発行します。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubarai-toshiaki@pref.gunma.lg.jp

【ECO ぐんま】の情報は、<https://www.pref.gunma.jp/site/eco/>